

平成22年度 決算特集号



H23.10.6 給食を味わう一宮西小学校の児童 関連記事6ページ

平成22年度決算が9月議会で承認されました。□

一般会計の決算内容を中心に「決算特集号」として紹介します。

CONTENTS

決算の概要について	2~5
合併特例債を活用した事業について	6~7
ふえふき家の家計簿から	8~9
市の基金(貯金)と市債(借金)の状況	10~11
財政健全化判断比率のお知らせ	12

平成22年度

決算概要



平成22年度一般会計決算は、歳入・歳出とも合併後最高額となり、歳入総額335億1600万円、歳出総額314億7100万円となりました。平成22年度の決算の特徴として歳入は、地方交付税並びに地方交付税の替わりである臨時財政対策債の大幅な増加があげられます。

また歳出は、子ども手当制度の導入や国の経済対策として行われた地域活性化交付金事業の実施による増加があげられます。歳入歳出差引額は20億4500万円となり、翌年度へ繰り越した事業への財源を除いた実質収支は、13億9300万円と大幅な黒字となりました。さらに前年度の繰越金及び基金の積立で、取り崩しなどを考慮した実質単年度収支は、7億8400万円の黒字決算となりました。

引き続き、本市は健全財政を維持しています。

歳入

歳入総額335億円

前年度比31億2000万円増

歳入の決算状況を科目ごとに見ていきます。

地方交付税

決算額は92億9800万円
前年度より9億3600万円増加しました。

合併以来初めて市税をこえて歳入科目のなかで最高額となりました。

市税

決算額は90億4700万円
前年度より89000万円増加しました。

平成22年度は都市計画税の課税を行わなかったものの、景気の回復や収納率の向上が図られたことにより90億円台を回復しました。

国県支出金

決算額は62億3300万円
前年度より7億9600万円増加しました。

子ども手当支給事業や私立保育所整備事業及び緊急雇用・ふるさと雇用創出事業に伴い増額しました。

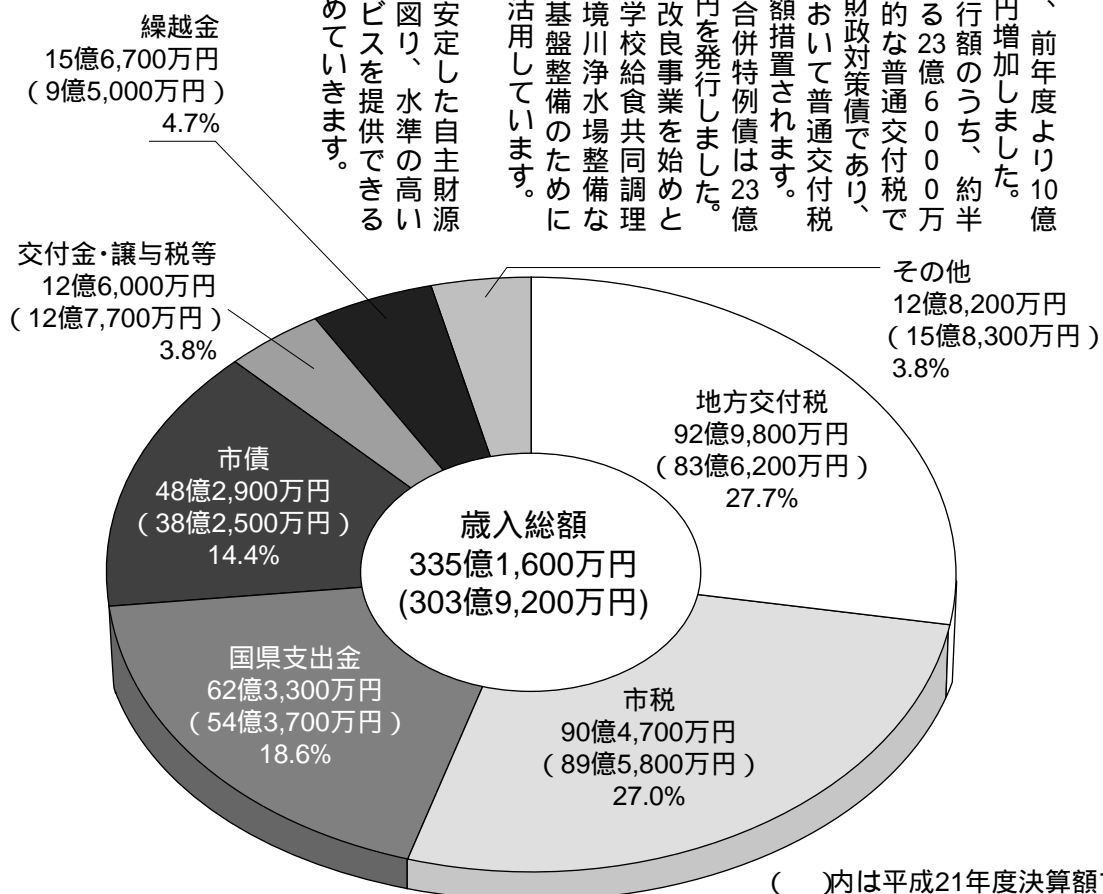
市債
発行額は48億2900万円

円となり、前年度より10億4000万円増加しました。

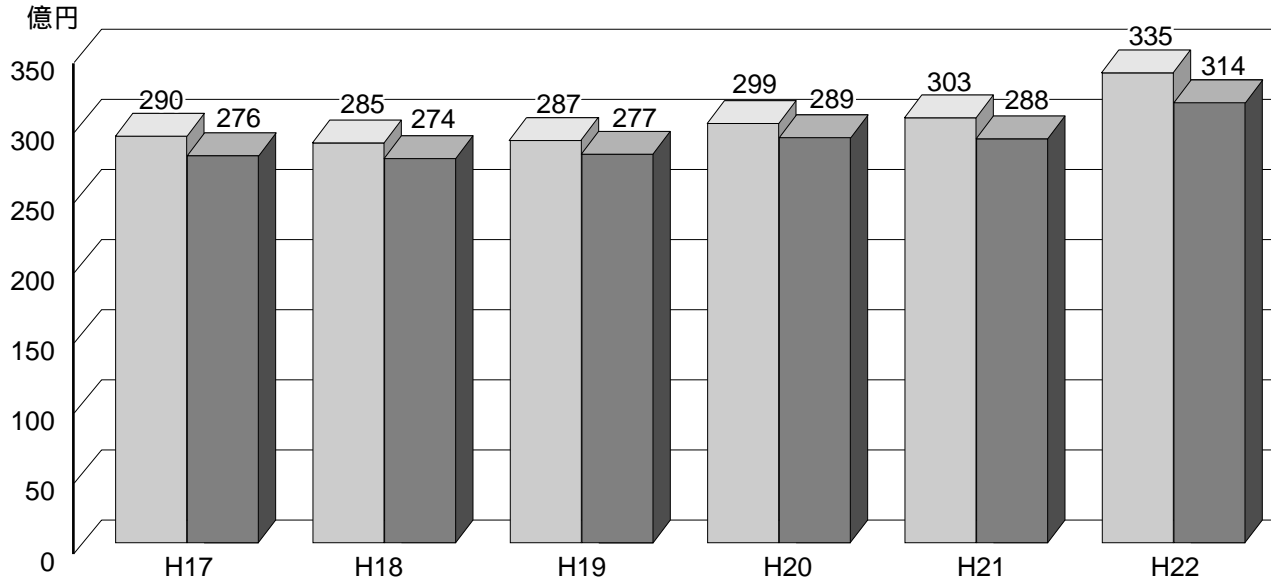
市債発行額のうち、約半分にあたる23億6000万円が実質的な普通交付税である臨時財政対策債であり、後年度において普通交付税により全額措置されます。

また、合併特例債は23億8000万円を発行しました。道路新設改良事業を始めとし、一宮学校給食共同調理場建設や境川浄水場整備など新市の基盤整備のために積極的に活用しています。

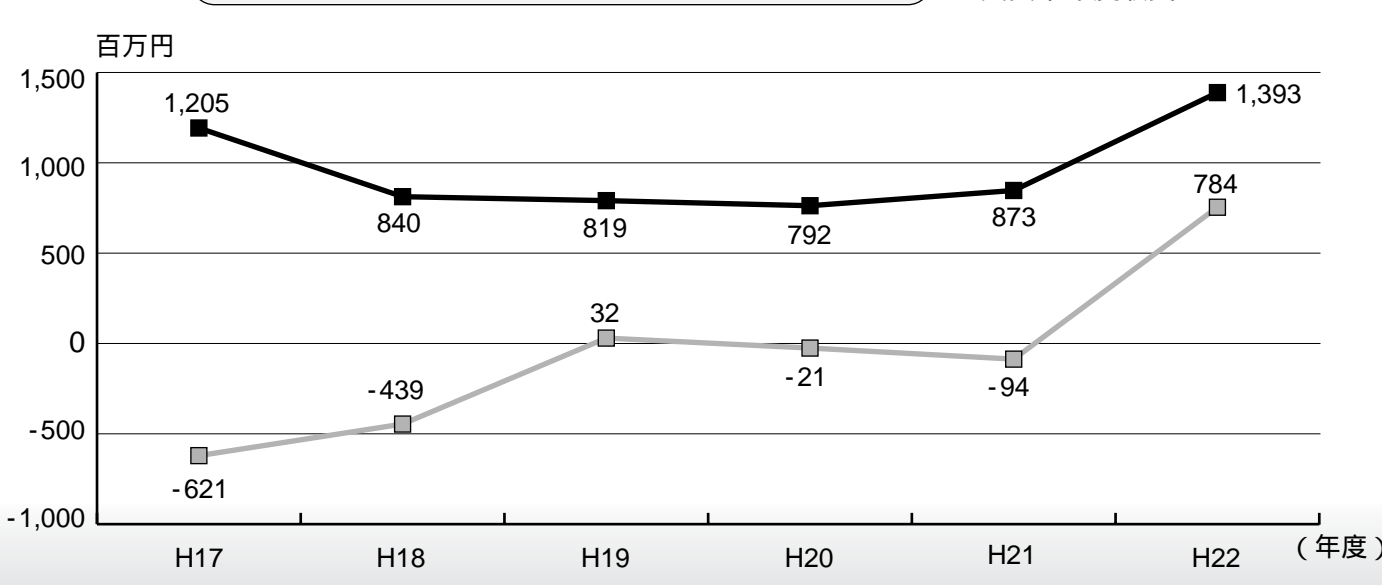
今後も安定した自主財源の確保を図り、水準の高い住民サービスを提供できるように努めていきます。



歳入・歳出総額の推移



実質収支・実質単年度収支の推移



財政用語ミニ事典

市税 市民が納める税金
普通税 一般的な経費に使われる税金(市民税・固定資産税など)
目的税 使用目的が決まっている税金(都市計画税・入湯税など)
【市では都市計画税は下水道や公園などの都市計画施設整備事業に、入湯税は観光振興事業に使っています】
地方交付税 国が国税から、市町村の行政状況に応じて地方自治体に配分するお金
市債 市の借金
国・県支出金 国や県からの補助金・負担金・委託金
譲与税・交付金 国や県が税金として集めて市町村に譲与・交付する収入(自動車重量税、地方消費税交付金、自動車取得税交付金など)
臨時財政対策債 国の財源不足により、普通交付税の替わりに発行する市債(後年、全額が普通交付税に算入される)

歳出

にぎわい・やすらぎ・きらめきのある
まちづくりに向け314億円が使われました！

歳出の決算状況を目的別で見てください。

民生費
本年度最も多く支出した科目で、子ども手当などの児童福祉事業や生活保護などの社会保障事業を行いました。決算額は90億8,100万円となり、前年度より8億円増加しました。

教育費
地域活性化交付金や合併特別債を活用して一宮学校給食共同調理場建設及び小学校太陽光発電システム整備、春日居中学校武道場建設など投資的の事業を積極的に進めました。決算額は37億9,100万円となり、前年度より10億7,600万円増加しました。

土木費
道路の新設改良事業や石和温泉駅周辺整備事業、公園維持管理事業を行いました。一方、石和駅前区画整理事業及びリニア関連事業は縮小されました。決算額は37億5,600万円となり、前年度より5億8,600万円増加しました。

諸支出金
将来の財源確保のために公共施設整備等基金、減債基金及び財政調整基金の積み立てを行いました。決算額は20億6,400万円となり、前年度より2億4,000万円増加しました。

公債費
臨時財政対策債及び合併特別債の元利償還金が増額となりました。決算額は36億5,000万円となり、前年度より2億4,000万円増加しました。

総務費
統計調査や選挙事務、戸籍事務などを行いました。平成20・21年度に行われた定額給付金事業の終了により事業費は縮小されました。決算額は34億2,000万円となり、前年度より4億3,300万円減額しました。

衛生費
境川浄水場建設事業に伴う一般会計からの出資や子どもの予防接種事業を拡充して行いました。決算額は25億5,000万円となり、前年度より5億7,000万円増加しました。

議会費
2億900万円 (2億1,000万円) 0.7%

総務費
34億2,000万円 (38億5,300万円) 10.9%

民生費
90億8,100万円 (82億8,100万円) 28.9%

衛生費
25億500万円 (19億3,500万円) 8.0%

労働費
1,300万円 (1,300万円) 0.0%

農林水産業費
13億400万円 (16億1,700万円) 4.1%

商工費
3億5,600万円 (3億2,700万円) 1.1%

消防費
13億2,200万円 (10億7,900万円) 4.2%

土木費
37億5,600万円 (43億4,200万円) 11.9%

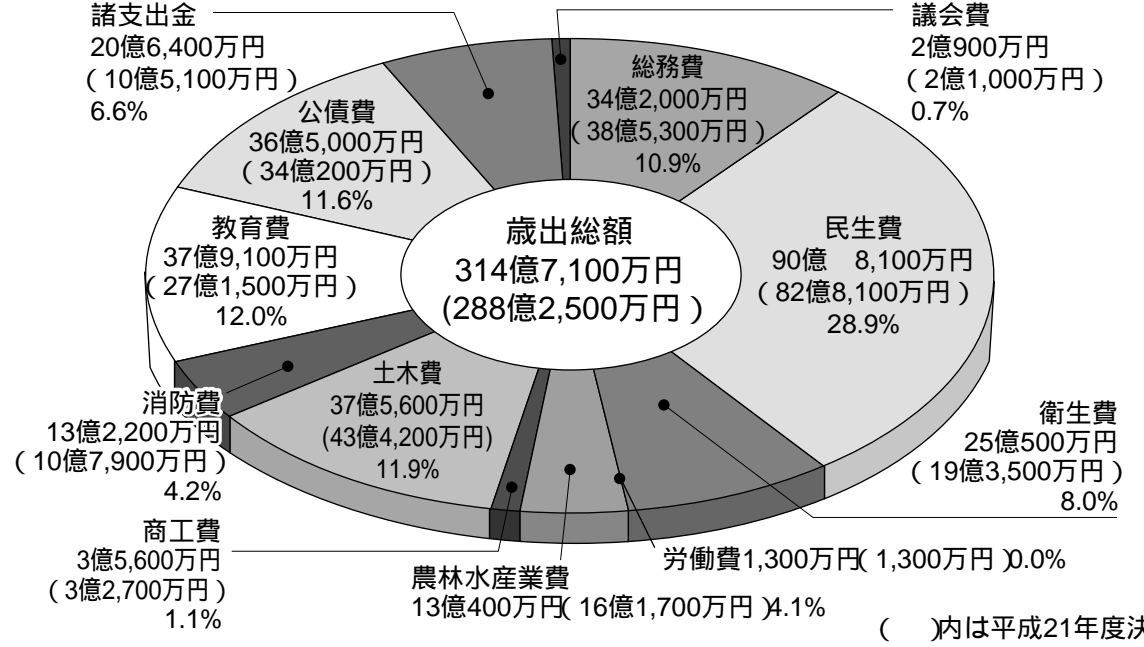
教育費
37億9,100万円 (27億1,500万円) 12.0%

公債費
36億5,000万円 (34億200万円) 11.6%

諸支出金
20億6,400万円 (10億5,100万円) 6.6%

歳出総額
314億7,100万円 (288億2,500万円)

()内は平成21年度決算額です



性質別決算の状況

ここでは歳出した経費を性質別に分類して見てみましょう。

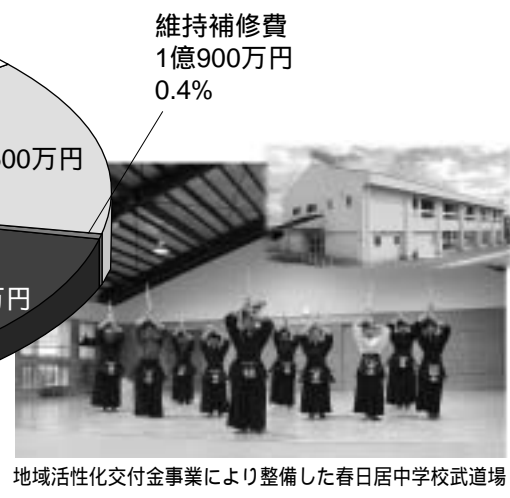
扶助費
決算額は49億8,000万円です。最も構成比が高くなっています。子ども手当制度の導入もあり前年度より10億2,300万円増加しました。少子高齢化社会が進みますので、年々増加傾向にあります。

普通建設事業費
決算額は48億7,000万円となりました。新市の基盤整備のため、積極的に合併特別債を活用し事業を行っています。今後、学校等の耐震化や道路整備・浄水場建設等のインフラ整備が予定されていますので、合併特別期間内は高額で推移すると考えられます。

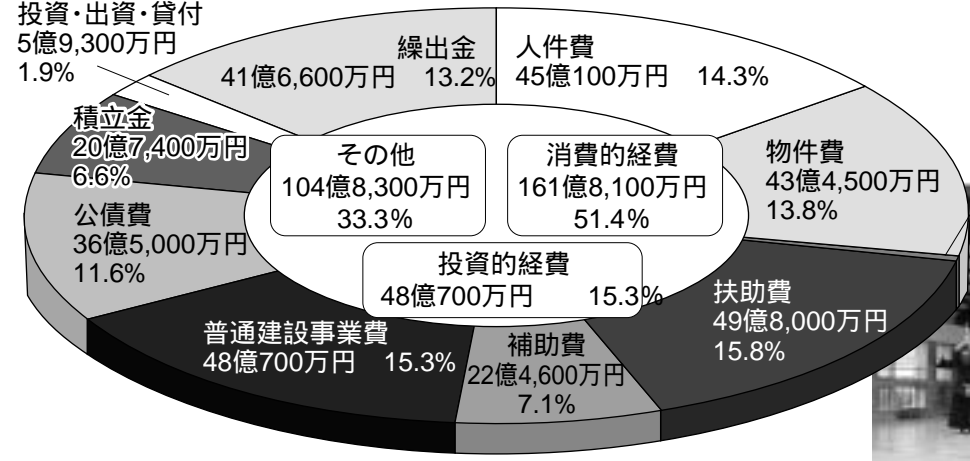
人件費
決算額は45億1,000万円となりました。前年度は最も構成比が高い科目でしたが、職員数の減少及び給与改定により2億3,000万円減少しました。市では職員定数適正化計画に基づき、さらに職員数を削減し、「小さな市役所」の実現を図っていきます。

物件費
決算額は43億4,500万円となりました。指定管理者制度の導入や地域活性化交付金事業を実施しました。行政改革の一層の推進により、コストの削減を図っていかねばならない科目です。

繰出金
決算額は41億6,600万円となり、前年度より減少しています。医療費の繰り出しが減少したため全体でも前年度より減少しています。



決算額は43億4,500万円となり、前年度より減少しています。医療費の繰り出しが減少したため全体でも前年度より減少しています。



性質別の構成比の推移

	人件費	物件費	扶助費	補助費	普通建設事業費	公債費	繰出金	その他
平成22年度	14.3	13.8	15.8	7.1	15.3	11.6	13.2	8.9
平成21年度	16.4	14.9	13.7	7.8	15.9	11.8	15.2	4.3
平成20年度	16.8	14.5	12.7	10.4	11.3	14.5	13.9	5.9

単位: %

特別会計決算

	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	81億5,693万円	78億3,283万円
老人保健特別会計	267万円	267万円
介護保険特別会計	46億1,264万円	45億6,442万円
介護サービス特別会計	1,726万円	1,400万円
後期高齢者医療特別会計	11億3,157万円	11億2,915万円
公共下水道特別会計	29億516万円	28億1,685万円
農業集落排水特別会計	6,518万円	6,196万円
簡易水道特別会計	7億829万円	6億5,325万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	4,639万円	446万円
水道事業会計	(収益的収入)11億1,293万円 (資本的収入)15億5,237万円	(収益的支出)11億69万円 (資本的支出)16億928万円
春日居地区温泉給湯事業会計	(収益的収入)6,963万円 (資本的収入)0円	(収益的支出)6,576万円 (資本的支出)1,230万円

財用語ミニ事典

総務費 庁舎管理、人件費、戸籍事務への経費など

民生費 社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、児童、心身障がい者等に対して行っている様々な支援に要する経費など

衛生費 ごみ処理に関わる経費、上下水道事業や簡易水道に関わる経費など

教育費 市立小・中学校の運営経費、文化財の保護管理、公民館、図書館、体育館等の文教施設の維持管理費、生涯学習活動経費など

公債費 市債返済のための経費(元利償還金)

特別会計 一般会計とは独立して、特定の目的を持った事業を行う会計

消費的経費 人件費や消耗品費のように、後年度に形を残さない経費

投資的経費 その支出の効果が資本形として向けられ施設や設備に蓄積される経費

合併特例債を活用した事業を紹介します

市では、新市の基盤整備を推進するため、合併特例債を活用し、さまざまな事業を行っています。

平成17年度から22年度までの活用状況は左下の表のとおりです。6年間で総額105億円を借り入れました。活用範囲が多岐に渡っているのが、本表からよくわかると思います。

今までの活用状況を見てみましょう。総額のうち約3分の1に当たる37億円が地域振興基金の原資となっています。この基金は合併特例債の償還が終了後、市が自由に使えるようになります。また、市道の整備や農業基盤の整備にも毎年、活用されています。

市では多機能アリーナ建設事業や砂原橋架替事業、石和温泉駅周辺整備事業などプロジェクト事業を計画しています。また、災害時における避難所や防災拠点となる学校施設、市役所庁舎の耐震化も急がれています。これらの事業費の主要な財源となるのが合併特例債であり、今後も積極的な活用が見込まれています。

しかし、合併特例債がどんなに財政的に有利な地方債であっても借金であることは言うまでもありません。将来の世代に多額な負担を残さないことを常に心がけ、事業を厳選した上で、有効活用を図って行く必要があります。

平成22年度は繰越分を含め約23億円の合併特例債を活用しました。その事業内容を紹介します。

消防団施設整備事業

借入額 7,010万円

各地区の消防団施設の整備を行っています。老朽化した詰所の建替や車両等の購入、また耐震性貯水槽の設置も行いました。



一宮分団第18部詰所と小型動力ポンプ付軽積載車（一宮町金沢）

道路新設改良事業

借入額 2億4,250万円

市道21路線において道路新設及び拡幅改良を行いました。合併特例債を活用して行う道路改良事業は旧町村間を結ぶ幹線道路を中心に整備しています。



合併特例債とは？

合併した市町村が、まちづくり推進のため新市建設計画に基づいて行う事業や基金の積立てに要する経費について、合併当年度及びその後10年間に限り、借り入れることのできる地方債のことをいいます。

事業費のおおむね95%を借り入れることができ、後年その償還金（元金と利子）の70%が普通交付税で措置されます。

合併特例債は次のような事業が該当となります。

道路・橋梁整備などの合併町村相互の交流や連携を円滑にする事業

未整備地区への施設整備など合併町村間の均衡ある発展に資する事業

現存する類似の目的を有する施設を統合する事業

新市の地域振興等のために設けられる基金の積み立て

境川浄水場建設事業

借入額 5億1,900万円



境川浄水場

境川・八代・石和地区への安定した給水を実施するとともに、災害時においても清潔な水の供給が期待できます。

合併特例債の発行額の推移

（単位：百万円）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	借入合計
福祉関係（保育所・学童施設）	51.5		86.4		214.8	88.0	440.7
農林水産業関係（農道整備等）	188.6	160.6	266.4	308.7	395.3	393.2	1,712.8
土木関係（道路・水路整備・都市計画事業等）	392.4	399.1	355.9	287.0	554.0	333.4	2,321.8
消防・防災関係（消防団施設・防災無線）	46.2	42.6	24.4	49.5	97.9	311.8	572.4
教育関係（小中学校施設）			57.2		27.6	633.6	718.4
保健衛生関係（浄水場出資債）				9.4	19.0	548.8	577.2
総務関係（庁舎等整備）			505.4				505.4
基金（地域振興基金）		950.0	950.0	950.0	835.0		3,685.0
借入総額（年度別）	678.7	1,552.3	2,245.7	1,604.6	2,143.6	2,308.8	10,533.7

防災行政無線整備事業

借入額 2億4,000万円

災害時などに市民のみなさまの生命・財産を守るための防災無線のデジタル統合化を進めています。



笛吹市役所南館4階 防災無線指令室

農業基盤整備事業

借入額 1億6,510万円

農道や水路の整備を毎年計画的に行っています。



市内農道整備（春日居町地内）

私立保育園緊急整備事業

借入額 8,580万円

一宮・八代・わかば保育園の建替・改修等に要する経費に補助を行いました。



新しくなったわかば保育園

一宮学校給食共同調理場建設事業

借入額 5億6,790万円

一宮地内の小中学校を共同調理場方式とし、効率的で衛生的な学校給食を児童・生徒に提供することができるようになりました。



一宮学校給食共同調理場

ふえふき家の家計簿(平成22年度)

支出				収入			
ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算				ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算			
支出の内訳		性質別歳出		収入の内訳		歳入内訳	
			昨 年 比				昨 年 比
A 食費	83	人件費	45 -2	給与収入	328	市税・地方交付税	183 +10
B 保険・医療・税金	92	扶助費	50 +11	パート収入	23	譲与税・交付金	13 0
C 住宅ローン返済	67	公債費	37 +3	住宅ローン借入	86	市債	48 +10
D 光熱水費、衣服 住居、教育	80	物件費	43 0	昨年からの繰越	28	繰越金	16 +7
E 家の改築	89	普通建設事業費	48 +2	貯金利子など	23	その他	13 -3
F 電化製品の修理	2	維持補修費	1 0	家の改築援助など (祖父母からの援助)	112	国県支出金	62 +8
G お父さんと長女のこづかい	41	補助費	22 -1	収入合計	600	歳入合計	335 +32
H 長男への仕送り	77	繰出金	42 -2	(万円)		(億円)	
I 定期貯金	38	積立金	21 +10				
J その他雑費	11	投資・出資	6 +6				
支出合計	580	歳出合計	315 +27				
(万円)		(億円)					

平成22年度国民生活基礎調査を参考に総収入600万円としました。

お母さん、去年は食費(人件費)は節約したけど、医療費(扶助費)が急激に増えたね。

そうなのよ~! おじいちゃんたちからの援助(国・県支出金)がなければ、我が家の家計は相変わらずきびしいわ。

家族みんなで、健康には注意しないとね!

これからは、光熱水費や衣服の購入(物件費)も切りつめたいのよ~ みんな協力してね。

僕はバイトしたりして仕送り(繰出金)を抑えて、やりくりしてるんだよ...


そうね...。とても助かってるわ!

でも将来的には車も買い替えたいしなあ~

私だって来年は大学だから貯金(積立金)はたくさんしておいてね!

子どもたちにもお金がかかるし、ローンの返済(公債費)も増えるから、一家の大黒柱として頑張って働かないとな!

祖父 祖母



ふえふき家の家計簿

笛吹市の一般会計の決算をわかりやすくするために、ふえふき家の家計にたとえて紹介します。

1年間の総収入【600万円の内訳】

- お父さんの給与収入 328万円
- 市税 13万円
- 市民のみなさんや会社から市に納めていただいた税金 48万円
- 地方交付税 16万円
- 自治体の財政状況に応じて国から交付されるお金 13万円
- お母さんのパート収入 23万円
- 譲与税・交付金 48万円
- 国や県が徴収して市に交付されるお金 16万円
- 住宅ローン借入 28万円
- 市債(市の借金) 48万円
- 道路や学校などを整備したり、改修するための借金 13万円

ふえふき家の家族構成

父 母
県外の大学に通う長男
高校生の長女



1年間の総支出【580万円の内訳】

- 食費 83万円
- 人件費 45万円
- 市役所の職員の給与や各委員さんの報酬など 92万円
- 保険・医療・税金 48万円
- 扶助費 16万円
- 高齢者などへの助成・生活保護費や子ども手当など 13万円
- (例)生活扶助費・障害者医療費・子ども手当など 62万円
- 住宅ローンの返済 48万円
- 公債費 16万円
- 市債(市の借金)の返済金 13万円
- 光熱水費・衣服の購入・教育費など 80万円

昨年からの繰越 28万円

貯金利子など 23万円

おじいちゃん・おばあちゃんからの家の改築援助 112万円

国・県支出金 62万円

事業の経費の一部を国や県から支出されるお金

- ⑤家の改築 89万円
- 普通建設事業費
- 道路・学校などの公共施設の新設や改修に必要な費用
- ⑥電化製品の修理 2万円
- 維持補修費
- 道路や学校などを修繕するための費用
- ⑦お父さんと長女のこづかい 41万円
- 補助費
- 市内の団体活動への補助金や負担金など
- ⑧長男への仕送り 77万円
- 繰出金
- 一般会計から特別会計に支出する費用
- (例)国保特別会計繰出金・下水道特別会計繰出金など
- ⑨定期貯金 38万円
- 積立金
- 将来のために積み立てるお金
- (例)財政調整基金積立金
- ⑩その他雑費 11万円
- 投資・出資
- 水道企業会計への出資金など

基金

笛吹市の基金（貯金）と 市債（借金）の状況

市債

笛吹市には現在、一般会計に15種類の基金があります。基金というのは家計でいうと預貯金のことです。決算剰余金が生じた場合などには基金に積み立てを行います。

また、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合には取り崩しを行い、事業費に充当しています。

平成22年度につきましては、将来のための財源確保や市債償還のための財源として、財政調整基金、減債基金並びに公共施設整備等基金に約20億円の積み立てを行いました。

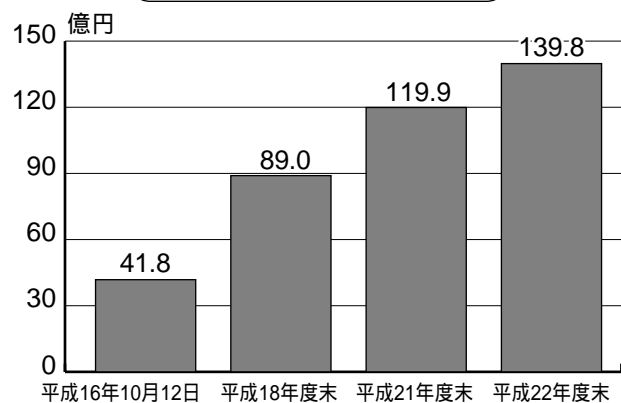
下の表は笛吹市が誕生した平成16年10月12日と旧芦川村が合併した平成18年度末、前年度（平成21年度）末そして平成22年度末の主な基金残高（預貯金残高）を示しています。

平成22年度末には笛吹市民（外国人を含む）の一人当たりの貯金額は19万3,718円となり、笛吹市誕生から比較すると約13万6,000円増加しています。

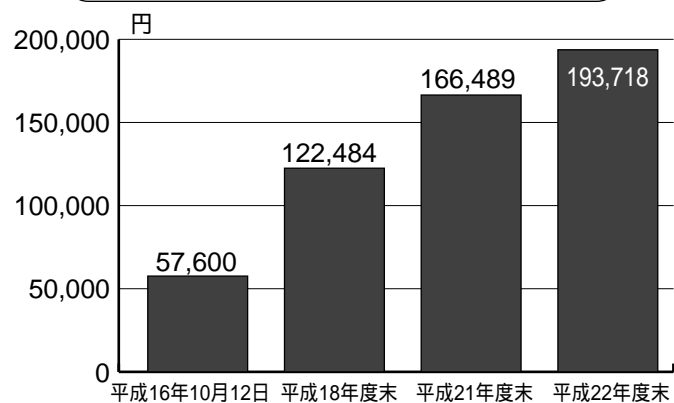
	平成16年10月12日 現在（笛吹市誕生）	平成18年度末 （旧芦川村合併後）	平成21年度末	平成22年度末
財政調整基金	18億7,272万円	23億4,693万円	22億745万円	24億945万円
減債基金	3億5,022万円	4億7,771万円	9億8,067万円	14億8,327万円
公共施設整備等基金	1億7,893万円	20億6,024万円	19億2,641万円	32億2,336万円
地域振興基金	0	18億7,697万円	47億9,264万円	48億2,070万円
その他特定目的基金	17億8,036万円	21億3,344万円	20億8,485万円	20億4,812万円
合計	41億8,223万円	88億9,529万円	119億9,202万円	139億8,490万円

合計は「現金」のみの残高です。ただし、地域振興基金については証券を含んでいます。土地開発基金につきましては定額運用基金であるため、基金総額には含んでいません。

基金残高の推移



市民一人あたりの貯金額



財政調整基金：急激な税の落ち込みや災害などに備えるための預貯金です。

減債基金：借金の返済のための財源を確保するための貯金です。

公共施設等整備基金：学校や道路・公園などの公共施設を整備するための貯金です。

地域振興基金：合併した市町村が、地域住民の連携の強化や地域振興のための貯金です。この貯金の原資は合併特例債の約38億円を活用して積み立てをしました。この貯金は借りた合併特例債の返済が終わったものから使うことができますが、利子については、毎年、ボランティア団体への助成金や、各地区の夏祭り、スポーツ大会への補助金として活用しています。

市債（地方債）とは、学校や公園・道路・上下水道などの公共施設の整備や災害復旧などの公共事業の財源として、複数年にわたり国や金融機関から借り入れる借金です。

市債を借り入れることを、「市債を起こす」「市債を発行する」とも言います。

市債には事業の内容に応じて様々な種類がありますが、平成13年度から国の財源不足による地方交付税の補てん措置として、臨時財政対策債の発行が認められています。

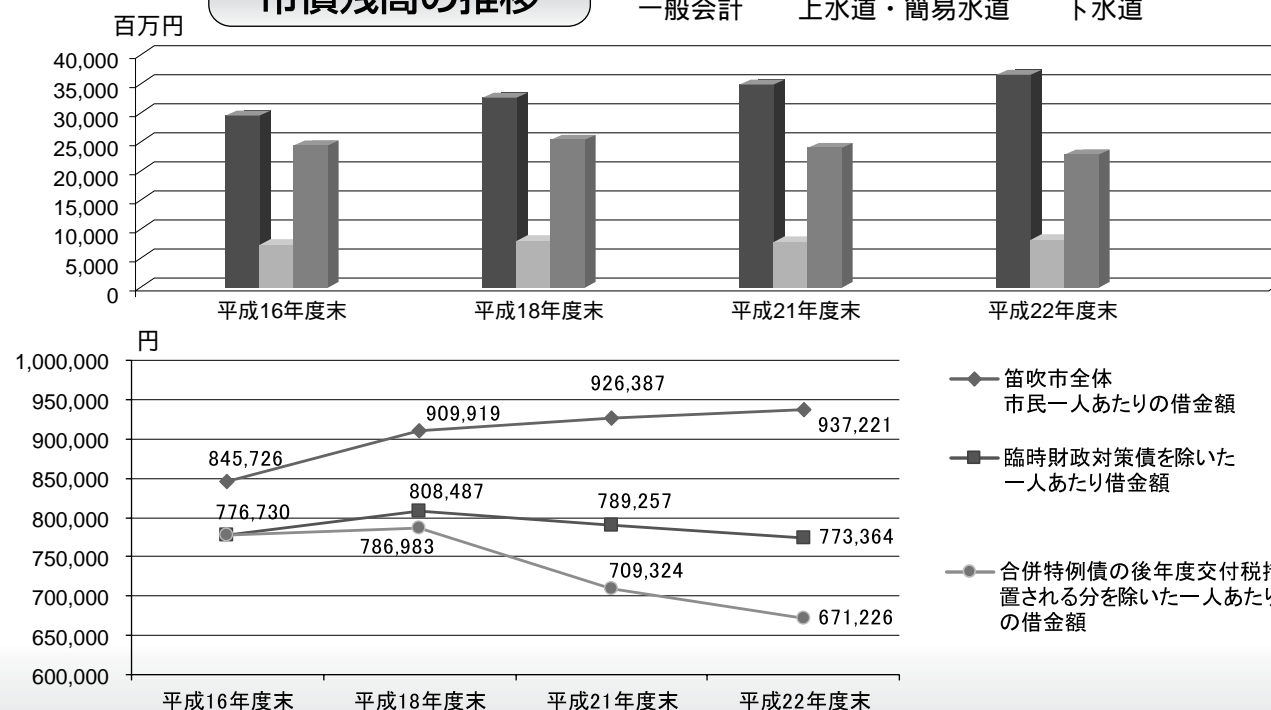
平成21年度末の市債残高は、一般会計分が約365億5,426万円、公営企業会計分（上下水道）が約311億560万円で、市全体では676億5,986万円となりますので、市民一人当たり換算すると93万7,221円を借金していることとなります。

市債が借金であることは間違いありませんが、元利償還金の一部もしくは全額が後年度において普通交付税に上乗せされて交付されます。このことにより各自治体とも、地方債の有効活用を行うことで、将来にわたり、健全財政の維持を図ることができます。

現在、本市の一般会計においては臨時財政対策債と合併特例債（6.7ページ参照）の発行が多くなっていますが、臨時財政対策債については借入額の全額が、また合併特例債については借入額の7割が後年度において普通交付税で措置されます。

会計名	平成16年度末 （笛吹市が誕生）	平成18年度末 （旧芦川村が合併）	平成21年度末	平成22年度末
一般会計	295億4,671万円	326億4,413万円	348億6,860万円	365億5,426万円
うち合併特例債	0	21億6,313万円	69億8,183万円	85億7,650万円
うち臨時財政対策債	50億960万円	73億6,645万円	98億7,806万円	118億2,914万円
公営企業会計	318億5,973万円	334億3,786万円	318億5,814万円	311億560万円
上水道・簡易水道	73億7,833万円	80億5,880万円	78億5,815万円	81億7,226万円
下水道	244億8,140万円	253億7,906万円	239億9,999万円	229億3,334万円
市債残高合計	614億644万円	660億8,199万円	667億2,674万円	676億5,986万円
臨時財政対策債を除く市債残高合計	563億9,684万円	587億1,554万円	568億4,868万円	558億3,072万円

市債残高の推移



笛吹市の財政健全化判断比率をお知らせします!

地方自治体（市町村等）の財政破たん（会社でいう倒産）を未然に防ぐために、平成19年度に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が施行されました。

この法律は、毎年全ての自治体に対して、財政の健全度を表す「健全化判断比率」の4つの指標と公営企業（上下水道事業など）の経営状況の健全度を示す資金不足比率を算定し、公表することを義務付けています。

平成22年度決算に基づく各比率の状況は次のとおりとなりました。

実質公債費比率につきましては、都市計画税の課税中止の影響等により昨年度より0.2%上昇し13.8%となりました。また、将来負担比率は、各種基金に積み立てを行いましたので、21.2%減少し88.4%となりました。平成22年度もすべての指標が健全の基準内となり、笛吹市の財政が健全であることがわかります。



	H22笛吹市 健全化判断比率	早期健全化基準 基準値を超えると「財政健全化計画」を作らなければなりません。	財政再生基準 基準値を超えると「財政再生計画」を作らなければなりません。
実質赤字比率	-	12.47%	20.0%
連結実質赤字比率	-	17.47%	35.0%
実質公債費比率	13.8%	25.0%	35.0%
将来負担比率	88.4%	350.0%	

「-」は、当該比率がない（赤字額がない）ことを示しています。
早期健全化基準は、自治体の財政規模により異なります。

健全化判断比率4指標



笛吹市の一般会計の赤字はどのくらい? **実質赤字比率** **赤字はありません**

「実質赤字比率」は、一般会計において、歳出に対する歳入の不足額（いわゆる赤字額）が財政規模に占める割合です。笛吹市の一般会計は黒字でしたので比率は算定されません。



笛吹市全体で赤字はどのくらい? **連結実質赤字比率** **赤字はありません**

「連結実質赤字比率」は、すべての会計の赤字と黒字を合算した赤字額が、財政規模に占める割合です。笛吹市では全会計が黒字でしたので比率は算定されません。



借金の返済などにどのくらい支払っているの? **実質公債費比率** **13.8%**

「実質公債費比率」は、一般会計が負担する公債費（借入金の返済額）や公営企業会計の公債費にあてる繰出金などが、財政規模を基本とした額に占める割合です。



今後どのくらいの負担が見込まれる? **将来負担比率** **88.4%**

「将来負担比率」は、一般会計の借入金（地方債）や契約などで支払いを約束したものが財政規模を基本とした額に占める割合です。この比率が高くなるほど、将来財政を圧迫する可能性が高くなります。

資金不足比率



公営企業の資金不足はどのくらい? **資金不足比率** **資金不足が発生している会計はありません**

「資金不足比率」は、公営企業会計の資金不足額が、公営企業の事業規模（通常の営業で見込まれる1年間の収入の額）に占める割合です。

■問合せ先 財政課 ☎ 055(262)4111

●発行/2011年11月1日 山梨県笛吹市役所

●編集/経営企画課・広聴広報担当

●所在地/〒406-8510 笛吹市石和町市部777番地 ☎ 055(262)4111

●URL <http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp>